



学校の「空気」をつくる

浜中町立茶内小学校長 富田直樹

第44号で「不登校」について触れました。令和3年度（2021年度）に文部科学省が実施した全国規模の調査結果から、全国の小・中学校等において、24万4,940人の子どもたちが不登校であることが分かり、この数値は過去最多であるとお伝えしました。どうしても「過去最多」という言葉に注目してしまいましたが、私たちは「一人の子どもが学校に行くことができずに苦しんでいる」という事実を重く受け止める必要があるのだと思います。私たち自身のことを優先的に考えていないか、これまでの学校の当たり前、子どもを合わせようとしていないか、そんな意識をもつことが大切なのだと思います。また、常に子どもの事実を真摯に受け止め、学校が変わり続ける手立てを見出していく、そんな姿勢で学校づくりを進めていく必要があるのではないのでしょうか。

本校には現在、99人の子どもたちが在籍していて、全員が毎日、自分から学校に来ます。これは、保護者の皆さんが愛情をもって子どもたちを送り出してきていることはもとよりですが、登校してくる子どもたちの様子から、少し変な表現ですが、「学校の『空気』を吸いに来ているのかな」と感じることもあります。

学校の「空気」をつくるのは、子どもたちと学級担任等の教員が中心ですが、本校には事務職員の柴田さん、管理人の松原さん、事務生の鈴木さん、学習指導員の大橋さん、教員業務支援員の山本さん、絵本の読み聞かせスタッフの山口さん、澤辺さん、國井さん、太田さんが居てくれて、たくさんの場面で子どもたちと関わってくれています。本校の「空気」を、子どもたちにとって更に心地よくしてくれている「サポーター」です。

大阪市立大空小学校初代校長の木村泰子氏は、校長時代に毎年の入学式で次のようなメッセージを保護者の皆さんに送っていました。



今日からみなさんは「保護者」というネーミングはシュレッダーにかけてください。「保護者」は家庭だけ！学校には、自分の子どもの周りにこれだけの子どもがいます。今日からみなさんは「サポーター」です。

自分の子どもを育てたかったら、自分の周りにいる子どもたちを育てに、自分の意志で学校に来て、困っている子どもの横にそっといてください。周りの子どもが育ったら自分の子どもは育っていきますよ。

自殺・不登校・いじめ、過去最多の言葉を生まないためには、子どもの周りの全ての大人で、困っている子どもが困らなくなる学校をつくることです。サポーターがたくさんいる学校には、「安心」の空気が充満してます。

木村泰子氏 ※サポーターとは、「学校に通う全部の子どもを育てようとする大人」こと。

先月下旬、PTA役員の皆さんは、12月に実施した学校評価（保護者アンケート）の結果分析に取り組んでくれました。その際、本校の今年度の重点教育目標を実現するために保護者として何が出来るか、本校を子どもたちにとって更に居心地のよい場所にするためにはどうしたらよいかなど、話し合ってくれました。そのときに、PTA役員の皆さんが子どもたち一人一人を支えてくれていることを改めて実感しました。これからも多くの保護者の皆さんが「サポーター」として、本校の「空気」づくりに参加してくれることを願っています。